

## 平成30年度 第1回 石岡市りんりんタウン構想推進委員会 会議録

- 1 日 時 平成30年6月21日（木） 午後1時30分～午後3時30分
- 2 場 所 石岡市八郷総合支所1階101号室
- 3 出席者 委員14人中13人
- 4 会議内容
  - (1) 開 会
  - (2) 挨 拶
  - (3) 会長及び副会長の選任  
会長に疋田委員，副会長に木下委員を選任
  - (4) 議 事

### ① 自転車活用推進法の概要と動向

【会 長】 災害避難にも活躍することで自転車は注目されている。海外では、自転車利用は環境にも健康にも良いといったデータがある。

石岡市には今回初めて来たが、以下の2項目が自転車をよりよく活用していくために大事なポイントと考える。1つは市民の中で車社会意識が強いため、高齢化社会等も鑑みて車社会を脱していく意識の向上であり、2つ目は、観光としてどのように自転車を迎え入れるかということである。

【副 会 長】 車で移動すると数秒で通過してしまう場所も、自転車を利用してゆっくり観光やスローライフをしてもらいたいと常々考えていた。

【事 務 局】 資料1に基づいて説明

【委 員】 国の自転車活用推進計画（以下、推進計画）有識者会議に参加し、意見を述べてきた。会議で議論する中で、自転車と関係するものが様々あることに気付いた。隅々まで経済効果があり、また、より安全なまちづくりを目指すことができると感じている。

まず皆さんに自転車活用推進法の第2条の基本理念で自転車が公共の利益になることを理解してもらい、自転車を使ってもらい、自転車環境も創出できる推進計画ができると良い。“健康”や“観光”が柱として組み込まれた。どのような人でも利用できる自転車を軸に、まちづくりが進むと良い。

【会 長】 左側通行が実現するとより安全になると思うが、市内の自転車環境はいかがか。

【委 員】 以前は日が暮れても無点灯の自転車が多く、危険であったが、オートライト等、自転車の性能が良くなったため事故発生件数も減少した。一時停止や並走、左側通行を守ることで、さらに事故は減るのではないか。

【会 長】 自転車ナビラインの表示により、走行方向が確立されてきたのではないか。水郷筑波サイクリング環境整備総合計画の取組みは、県が実施しているのか。

【委 員】 県道以外の自転車道整備が進んでいない。市町村は駅周辺、学校周辺を中心に整備することになると思うが、県の計画においてもいつまでにどの程度整備するかを決めていけると良い。

【委 員】 県の計画では“回遊性のあるサイクリング”とうたっている。桜川市と石岡市のサイクリングロードを整備することで、自転車で回遊できるルートができるのではないか。石岡市の構想にそのようなルート設定の想定は既にあるのか。

【事 務 局】 構想におけるルート設定はまだ設定できておらず、今後状況調査等を踏まえて進めます。広域的観点からのルート設定は、関係する県や市町村等との連携及び調整を図りたいと考えます。

## ②市の構想策定に向けて

【事 務 局】 資料2に基づいて説明

【委 員】 資料2の2ページで国の目標に、良好な環境形成とあるが、他市町と違いが出るような特色、回遊の施策、使いたくなるよう

な魅力を見つけられると良い。里山や霞ヶ浦，地形の高低差等を楽しめるルート設定も良いだろう。

サイクリングに来る人は，実際どのような手段でまちに入ってきているのか。公共交通を利用するのか，あるいは自家用車で来ているのか。車を利用する人が多いのであれば，駐車場の整備等も検討が必要になるだろう。パークアンドライドの考え方を取り入れてはどうか。アクセス方法，標高差等が分かりやすい魅力あるマップ作成等ができるとうまいだろう。

【委員】 県の水郷筑波サイクリング環境整備総合計画を策定する議論の中で，霞ヶ浦と筑波山でそれぞれ周遊でき，8の字にまわることができるルートを設定した場合，他県にない魅力となる！というような発想があった。環境の形成について，石岡市は拠点や中心性が弱いまちである。駐輪場の整備だけではなく，訪れる人のアクセス性を考慮した計画となると良い。

【委員】 県の計画の補足であるが，自転車だけの周遊は理想であるが，自転車利用以外に鉄道といった公共交通やレンタサイクルの活用も含めた周遊性の確保を視野に入れていた。

【委員】 恋瀬川サイクリングコースはあるが，上流側は自転車のすれ違いも困難な場所がある。自転車利用環境の改善について，壮大な構想はあるが，莫大な費用がかかる。2020年を目処に整備等を進めるためには，市の柱立て案を基に実施していくことが良いと考える。

【会長】 サイクリングは市内の観光としてどのような状況か。

【副会長】 自転車は活かされていないのが現状である。誘客として良いコンテンツであるため，パークアンドライドを進める等して観光の一部として担っていけると良い。

【委員】 市内でサイクリングをしていて，風土記の丘から筑波山までのルートは実際良い道であるし，比較的利用されているコースではないか。恋瀬川サイクリングコースは，整備されたら良いコースになるのではないか。

【委員】 サイクリングで訪れた人が、シャワーの利用や飲食できる環境も付随すると良いのではないか。

【副会長】 石岡にはお祭りもあり、付随して食事や休憩する場所もあると観光に活かせるだろう。

【委員】 フルーツを食べることができ、また霞ヶ浦への眺望も活かせるというのではないか。

【会長】 フルーツはすごく良い。地元は何があるのか悩んでしまうことが多い。

しまなみ海道の成功の要因は2点あり、1つ目は泊まる場所があること、2つ目はご当地の食を楽しんでもらえる環境を作ったことにある。多額なコストがかかっているため同様の整備は難しいかもしれないが、ビジネスにつながる施策展開ができると継続するのではないか。

【委員】 来訪者の自転車利用が増える場合、お金がまちに落ちないと、住民から見れば迷惑行為である。自転車で訪れる人が来たことでまちに活気が出る等、良い影響が生まれると良い。

また、個性的なコンテンツをまちの中で発掘できると良い。

私は、「いしおかサンド」に興味を強く持ち、食べたくて石岡に来た。「ここ来ると〇〇が食べることができる！」といった拠点があると良い。女性が訪れるとゆっくり走ったり、一時的に休憩しながら食を楽しんだり、最後にお土産を買ったり、まちにお金が落ちる。観光手段として自転車を選んでもらえるようになると良い。

### ③ 自転車活用状況調査について

【事務局】 資料3に基づいて説明

【会長】 学校側から見て、状況調査をどのように考えるか。子どもの利用実態も分かる範囲で教えていただきたい。

【委員】 現在の状況調査においては、子どもに関する質問は市民アンケート

ートの間 24 の親目線のみである。子どもを対象に自転車利用の実態を把握してもらいたい。学校で配布及び収集を行えば回収率も高く、比較的簡単に実施できる。小学校等は統廃合が進んでおり、長距離通学している子どももいる。

スクールバスもあるが、時間の融通が利かないことを理由に、自転車通学に変更する子どもも多いため、自転車利用はますます進むと想定している。将来を見据えて小中学生向けの状況調査の実施と、構想の方針が必要ではないか。

【委員】 柱立て（案）の施策（案）で「交通マナーの啓発」となっているが、交通マナーだけではなく、まず「交通ルールの啓発」ではないか。子どもが全員左側通行を守れていれば、すごいことである。

【委員】 交通ルールの教育の場は、小学校において警察の方に来ていただき、毎年 1 回設けている。

【委員】 教育の場を設けているが、警察では教育内容が子どもに浸透しているのか分からない状況である。実態が把握されると、交通教室の参考になる。

【会長】 様々なまちで、自転車を利用する子どもの交通ルール順守率が低いと聞く。順守率は高校 1 年生，高校 2 年生，中学 3 年生の順に低い。子どもに対してはアンケートと言うよりもクイズ形式が良いのではないか。  
自転車が怖いと話していた高木委員はご意見いかがか。

【委員】 高齢者もスーパー等への買物に車を利用するような郊外型のまちであり、車を運転していて自転車が隣を通るのは怖いと感じる。看板建築の前も怖い。自転車を利用する場合、道路の凹凸や坂道が多く、お年寄りには自転車を乗らずに押さなければ厳しい道が多いのではないか。

【委員】 自動車の密度が低いエリアの場合、自動車はスピードを出しているため、通行する自転車は怖いだろう。あと、沿道の草刈りがなされていないと、曲がり角が見えない等危険である。

自動車に乗る人に、自転車を利用するか確認できると良いのではないか。自転車を利用する人はしっかり自転車等の交通を優先するといった交通マナーが守れている。

【委員】 市内にゾーン 30 を 2 箇所定めており、横断歩行障害等を防止している。

【委員】 13 歳未満、70 歳以上は歩道通行が許可されているという認識で合っているか。

【委員】 合っている。

【会長】 誤解されていることが多いが、基本的に歩道は歩行者優先であり、歩道を走行する自転車の速度は時速 7.5km/h までで早歩き程度の速さであり、歩道における自転車利用者は、ほとんど守れていない。

自転車利用の問題はほぼ自動車に起因するため、ドライバーの意識向上が大切ではないか。自動車を運転する人は、自転車を邪魔と考えているのではないか。自転車だけではなく、ドライバーの意識も把握できると良い。

【委員】 恋瀬川サイクリングコースを走りやすくしてほしい。

【委員】 まちなかが走りやすくなるように、ドライバーの意識を問うと良いのではないか。また、調査票において、自転車保険の文言の変更は可能か。車両保険のオプションを利用した場合は家族にも保険をかけられる等のメリットもある。自転車保険だけに保険を制限する必要がないと考える。

【委員】 道路の整備等は状況調査を踏まえて整理していくのか。

【事務局】 状況調査や会議等の結果を踏まえて、整理していきます。

【委員】 各店で野菜やトイレの提供等、おもてなしをしているところがある。自転車休憩場所等として受け入れているお店を対象に、状況調査ができると良いのではないか。

【委員】 高齢者の自動車免許自主返納と自転車利用をつなげないでほしい。

【会長】 デンマークでは、倒れにくい3輪自転車を利用しているが、日本では法整備が整っておらず3輪車は歩道を通行できない。今後、整備が必要になる。禁止や規制をしていくと、前に進まない状況になってしまうため、自転車利用の禁止等をなるべく考えず、計画策定が進むと良い。

【委員】 県内では行商のように、なかなか広範囲を移動できない高齢者等への生活サポートを行っている。

【事務局】 小学生等の子ども対象の状況調査も実施する方向で、本日受けたご意見等を受けて状況調査票は見直し、会長にご相談しながら進めます。次回の開催は9月下旬を予定しており、日程が決まり次第皆様にお知らせいたします。

(4) 閉 会

以上